

貸し出しパネル Aセット

1. 兵士になる-徴兵検査

戦争が終わるまで日本では、ほとんどの男性は、20歳（戦争末期には19歳）になると、徴兵検査（その人が兵士となるのに適しているかどうか調べる検査）を受けなければなりません。

徴兵検査で選ばれた人たちは一定の期間、軍隊に入り兵士としての訓練を受けました。



2. 戦争に行くということ-召集・応召

戦争が起こると、軍隊に入らなければならない年齢（およそ20歳～40歳）にある男性には、軍隊に入るようにという「召集令状」という書類（赤紙とよばれていた）が届きました。また、召集されて、軍隊に入ることを「応召」といいました。戦争が激しくなると、多くの男性が召集されるようになりました。

3. 戦場でのできごと-兵士の体験

中国ではじまった戦争は、その後、東南アジアや太平洋の島々へと拡大していきました。滋賀県からは延べ約9万5千4百人の人たちが日本軍の軍人として戦いました。

この戦争で亡くなった日本軍の人たちは、行方不明者を含めて約230万人といわれています。そのうち、約3万2千6百人が滋賀県の人たちでした。また、戦場となった東アジア・東南アジアの国々では、2千万人以上の軍人や一般市民が犠牲になったといわれています。



4. 戦場でのできごと-日赤の救護看護婦の体験

戦場で戦うのは男性でしたが、看護婦（現在の看護師）として、戦場でケガや病気をした人たちの看護をする女性たちがいました。兵士と同じように、召集令状が届き、家族や近所の人たちに見送られ、出かけていきました。

戦争の頃、兵士になれない女性でも、戦場へ行くことができるので、女の子の憧れでした。

戦場でのできごと
一日赤の救護看護婦の体験

戦場で戦うのは男性でしたが、看護婦（現在の看護師）として戦場でケガや病気をした人たちの看護をする女性たちがいました。兵士と同じように、召集令状が届き、家族や近所の人たちに見送られ、出かけていきました。戦争の頃、兵士になれない女性でも、戦場へ行くことができるので、女の子の憧れでした。

西浦一英さん、恩田八重さん、木村まささんは、日本の看護婦として、西浦さんと恩田さんは中国の戦場で、木村さんは、中国・ニューブリテン島のフィリ・フィリ島の戦場でケガや病気をした兵士たちの看護にあたりました。



西浦一英さんが、大連の日本赤十字看護婦会館で卒業する姿の記念写真。(写真中 西浦一英さん撮影)

1937年(昭和12)年10月、西浦一英さんが「第41看護隊」の一員として中国の戦場へ赴いた際、録音機で文芸少年と交流する様子。(写真中 西浦一英さん撮影)

高知の海軍で出かける恩田八重さん。船から見た大連の街並み。

ニューブリテン島、フィリピンに到着した木村まささん。病気の兵士と接する恩田八重さんの様子。木村さんは、志願兵、フィリピンに行き、フィリピンの中で看護を続けました。(写真中 木村まささん撮影)

戦場でのできごと-若者と戦争

召集されて軍隊に入る人たちのほかに、希望して軍隊に入る人たちもいました。そうした制度を「志願兵制度」といいました。戦争がはげしくなると、志願兵として多くの若者が軍隊に入りました。

志願兵さん	義勇隊さん
<p>1943(昭和18)年、滋賀県立高等学校(現在の滋賀県立高等学校)の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。</p> <p>1944(昭和19)年4月、神戸市立中央高等学校で募集された「有志」に参加。その結果、戦場のアメリカ軍の戦線にむけて飛び出し、戦死しました。そのとき志願兵さんは21歳でした。</p>  <p>志願兵の募集で待つ若者たち。志願兵の募集。</p>	<p>1938(昭和13)年、滋賀県立高等学校(現在の滋賀県立高等学校)の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。</p> <p>1941(昭和16)年12月28日、神戸市の戦線に赴き、戦死しました。そのとき志願兵さんは、19歳でした。</p>  <p>戦線に赴く若者たち。戦線での様子。</p>
<p>1943(昭和18)年、滋賀県立高等学校(現在の滋賀県立高等学校)の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。</p> <p>1944(昭和19)年10月、フィリピンに赴き、戦線に赴き、戦死しました。そのとき志願兵さんは、19歳でした。</p>  <p>戦線に赴く若者たち。戦線での様子。</p>	<p>1943(昭和18)年、滋賀県立高等学校(現在の滋賀県立高等学校)の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。</p> <p>1944(昭和19)年10月、フィリピンに赴き、戦線に赴き、戦死しました。そのとき志願兵さんは、19歳でした。</p>  <p>戦線に赴く若者たち。戦線での様子。</p>

5. 戦場でのできごと-若者と戦争

召集されて軍隊に入る人たちのほかに、希望して軍隊に入る人たちもいました。そうした制度を「志願兵制度」といいました。

戦争が激しくなると、志願兵として多くの若者が軍隊に入りました。

6. 満州へわたった少年たち-満蒙开拓青少年義勇軍

1931(昭和6)年、いまの中国の東北部で、日本の軍隊は「満州事変」という戦争を起こしました。これをきっかけに日本は「満州国」という国をつくり、そこには、多くの日本人がうつりすみました。

そのなかには、満蒙开拓青少年義勇軍（満州では義勇隊）といわれる、少年たちがいました。彼らには、土地をたがやして農業をすることと、兵士としての役目がありました。全国では、約10万人、滋賀県からは1,148人（滋賀県史による）が参加しました。

「満州」へわたった少年たち
満蒙开拓青少年義勇軍

1931(昭和6)年、いまの中国の東北部で、日本の軍隊は「満州事変」という戦争を起こしました。これをきっかけに日本は「満州国」という国をつくり、そこには、多くの日本人がうつりすみました。そのなかには、満蒙开拓青少年義勇軍（満州では義勇隊）といわれる、少年たちがいました。彼らには、土地をたがやして農業をすることと、兵士としての役目がありました。全国では、約10万人、滋賀県からは1,148人（滋賀県史による）が参加しました。

1939(昭和14)年、前橋市立高等学校の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。

1940(昭和15)年、前橋市立高等学校で募集された「有志」に参加。その結果、戦場のアメリカ軍の戦線にむけて飛び出し、戦死しました。そのとき志願兵さんは、19歳でした。



戦線に赴く若者たち。戦線での様子。

1941(昭和16)年、前橋市立高等学校(現在の前橋市立高等学校)の学生。卒業後、卒業生有志の有志(新設兵)に志願。

1942(昭和17)年、前橋市立高等学校で募集された「有志」に参加。その結果、戦場のアメリカ軍の戦線にむけて飛び出し、戦死しました。そのとき志願兵さんは、19歳でした。



戦線に赴く若者たち。戦線での様子。

10. 滋賀県と空襲—空襲に備えて

飛行機から爆弾や焼夷弾を落としたり、機関銃で攻撃したりすることを空襲といいます。

空襲を受けた時に備えて防空演習（逃げる訓練、火を消す訓練、ケガをした人を手当てする訓練など）がありました。防空演習は、地域の女性を中心に行われましたが、参加を断ることはできませんでした。



11. 滋賀県と空襲—おもな空襲の被害

戦争が終わる1年程前からは、東京、大阪、名古屋などの大都市を中心に、大きな空襲があり、多くの人が犠牲になりました。

滋賀県では、戦争が終わる3ヵ月くらい前から、軍事施設や兵器などをつくる工場（軍需工場）、駅などを中心にたびたび空襲があり、50人以上の人が亡くなり、180人以上の人がケガをしました。

12. 戦争と子どもたち—子どもたちの毎日

戦争が始まってしばらくすると、子どもたちが大好きなマンガや本には、戦争のことについて書かれたものが多くなりました。兵士として戦場へ出かける近所の人たちを見送る日が増えていきました。

そして、子どもたちは毎日、空襲から頭をまもるための帽子（防空頭巾）をかぶり、胸には血液型を書いた名札をつけて、学校へ行きました。



13. 戦争と子どもたち-戦争のころの小学生

日本とアメリカ・イギリスなどとの戦争（太平洋戦争）が始まる半年前、1941（昭和16）年4月、小学校は「国民学校」という名前にかわりました。教科書も、国民が力を合わせて戦うことなど、戦争と結びついた内容になりました。

子どもたちは、小さくても立派な国民という意味の「少国民」とよばれ、やがては、立派に戦う兵士や戦争に協力する大人になることが望まれていました。



14. 戦争のころの中高校生「軍事教練」と「学徒動員」

今の中学生・高校生が通う学校では、男子生徒には、戦争での戦い方や武器の扱い方を習う「軍事教練」という授業がありました。

また、戦争が長引いてくると、多くの男性が兵士として戦場に行ったため、働く人たちが不足してきました。それを補うため、多くの生徒は学校での授業をやめて、琵琶湖の干拓の作業をしたり、兵器などをつくる軍需工場などへ働きに行ったりするようになりました。それを「学徒動員」といいました。

15. 学童疎開-大阪の子どもたちがやってきた

東京、名古屋、大阪など大都市の子どもたちが、空襲の少ない地方に学校などでまとまって移動し、生活することを「学童疎開」といいました。

滋賀県には、1944（昭和19）年8月31日から9月2日にかけて、大阪市内から約1万1千人の小学生が到着しました。子どもたちは家族と別れて、滋賀県のいろいろな所で、友達や先生と暮らしました。そして、地元の小学校に通いました。



16. 学童疎開地図

大阪の子どもたちが通った小学校

